

石こう像損壊

美術系高校生 困った

熊本地震を受け、崇城大が開いた石こう像などのデッサン会で、黙々と描き続ける高校生たち＝熊本市西区



熊本地震により県内の高校で石こう像が多数損壊し、美術を学ぶ生徒が困惑している。石こう像デッサンを受験で採用する美術系大学もあるためだ。「地震に負けないでほしい」と、必由館高（熊本市中央区）では、卒業生が購入費を寄付。崇城大芸術学部（西区）は高校生向けに石こう像のデッサン会を無料で開いている。未来の芸術家を支援する動きが広がっている。

購入費寄付 デッサン会 OBや崇城大が支援



熊本地震で石こう像が多数損壊した必由館高。卒業生から購入費が寄せられ喜ぶ美術部員ら＝熊本市中央区

芸術コースがある必由館高は、熊本地震で頭像や胸像など48体が損壊。無傷は4体だけだった。石こう像デッサンは空間や質感、物体を正確に捉える力を養うのに欠かせないとされる。1体数万円する。卒業生で人気漫画「神さまの言うとおり」の作画で知られる漫画家の藤村緋さん（24）＝本名・藤村陵、東京＝は、美術科主任で美しい。他県の高校生が術部顧問の高山法雄教諭（50）から実情を聞き、「後輩のため一肌すく安心した」。趣

「脱（だつ）」と、同部に石こう像購入代として100万円を寄付した。早速23体を注文。6月中に届くという。藤村さんは「今は大変かもしれませんが、いつか笑顔になれる日まで、今日を強く生きてください。僕も遠くから応援しています」とのメッセージを母校に寄せた。美術系の大学進学を目指す3年の中川優里さんは「うれ

向を疑わしたお礼状を送るつもりだ。一方、被害が少なかった崇城大芸術学部は、こうした状況を聞き、14日から、土日の午前10～午後4時、高校生向けに石こう像と静物、動物の複製の無料デッサン会を開いている。22日も各校の16人が黙々と鉛筆や木炭を走らせた。同大の教員も交代で指導や助言をする。石こう像が多数損壊した

第二高3年の二宮海さんは「卒業制作の人物像（彫刻）も地震で倒れた。焦りはあるが、本当に助かる。デッサン力をレベルアップしたい」と言う。同大の有田巧教授（64）＝フレスコ画＝は「他校の生徒に刺激を受けるのか、時間を惜しむように描き続けている。これならすぐに上達する。当面は続けたい」と話している。（中原功一朗）